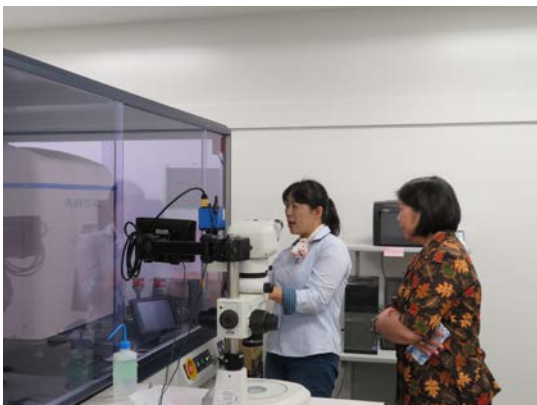


## 🍀 インドネシア2大学による大阪市立大学人工光合成研究拠点見学

2018年10月3日(水)に、インドネシアのジャワ島東部、マランにあるマチュン大学光合成色素研究所(Ma Chung Research Center for Photosynthetic Pigments, MRCPP)で研究グループを主催するリナワティ・リマンタラ博士が人工光合成研究センターを訪問しました。リマンタラ博士はマチュン大学(Universitas Ma Chung, UMC)で2期(2007-2015年)学長を務めた際にMRCPPを創設し、2016年よりジャワ島西部のペンバングナン・ジャヤ大学(Universitas Pembangunan Jaya, UPJ)で学長を務めながら、MRCPPでも研究を続けているパワフルな女性研究者です。

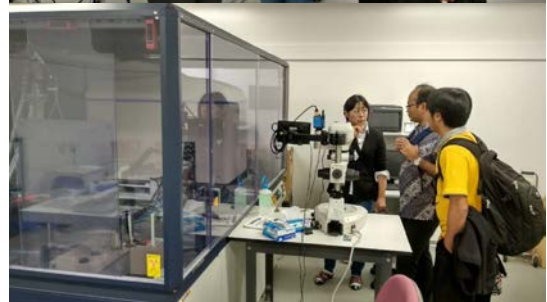
MRCPPは、現在ではインドネシア重点研究拠点の一つとして、国家認定されている数少ない研究所です。インドネシア原産の様々な植物を活用し、機能性食品や色素増感太陽電池に資する学術的知見を蓄積する活動を推進しています。インドネシアでは液体ヘリウムなどの寒剤を常時利用するNMR、FTICRMSといった分析機器の設置維持が困難であるため、国際共同研究を強力に推進することで問題を克服しています。

リマンタラ博士は、修士課程より7年間の学生時代を日本で過ごし、学位を取得した後、博士研究員としてドイツに渡りました。現在は、主としてドイツを含むEU諸国との連携で研究を進めていますが、今後日本との連携も深めていきたいという強い希望がありました。本学女性研究者支援室主催の「植物の色と食」セミナーでの講演後、研究交流のために人工光合成研究拠点を視察し、施設内の高度分析機器の見学だけでなく、利用状況や利用受け入れについて、藤井律子准教授が詳細を説明しました。



リマンタラ学長の視察の様子

10月17日(水)には、MRCPPの所長であるタス・ブロストスダラモ博士が研究員とともに、共同研究を開始するにあたり人工光合成研究拠点を訪問しました。



ブロストスダラモ所長の視察及び打ち合わせ

人工光合成研究センター分析部門では、国内外を問わず広く共同利用を推進しています。ご興味をお持ちの方はぜひお問い合わせください。

人工光合成研究拠点では、当研究センターに関するお知らせや講演会開催の案内など、最新情報をホームページやFacebookに掲載しています。こちらも、ぜひチェックしてください。

人工光合成研究拠点 ニュースレター

第3巻・第7号平成30年10月25日発行

発行責任者: 天尾 豊 (大阪市立大学人工光合成研究センター所長)

編集責任者: 吉田朋子 (同副所長)

<http://recap.osaka-cu.ac.jp/ap-coe/index.htm>